

槍ヶ岳

2012年7月28～30日

リーダー＝伊藤 松雄



天空に聳え立つ尖鋭峰―「槍ヶ岳」3180m

▲〇〇にて

新田次郎著・槍ヶ岳開山「序」には

文政11年(1828年)7月28日、太陽は傾きつつあった。
「上人(しょうにん)様、やはりやめたほうがいいではねえずらか、この槍の穂へは未だに誰も登った者はねえ、生きものは、たとえ鳥でさえも、この尖(とが)った岩の頭に止まったのを見た者はござらぬ、これから上は天のものだ。われわれが登るべきではねえ」中田又重郎が云った。

「天のもの」…播陸(ばんりゅう)は又重郎のことは尻をつかまえたが敢て追及することもなく…自らの草履の紐を結び直し、脚絆、股引きをも改めた。最後に播陸が、頭巾をかぶり直したとき、又重郎は、あきらめた顔でいった。

「では上人様、登れるところまで登るずらか…」。

それから184年後の2012年7月30日、「ハイしかりと鎖につかまって!」と鳴原さんの言葉が、まだ夜が明けない大槍(槍ヶ岳山頂部)の岩々に響きわたった。

遊友レスキュー隊・鳴原隊長のサポートで大槍に登頂

今回の槍ヶ岳山行者は13人。いま大槍に挑戦しようとするメンバーは私を入れて9人。中には初心者1人、女性は4人、男性が3人と、夜が明けない槍ヶ岳山荘前にそろった大槍挑戦組を見て、「大丈夫かな…」と不安がよぎった。

山の「ベテランと称する人らは、「前日に大槍に登ったから」と

大喰岳(おおばみだけ)に行く人、下山に備えて山小屋の布団にもぐっている人など…出発前に知り、驚きと失望感。そして不安は後悔に変わるのに時間はかからなかった。「怖ーい」と、鎖や岩にへばりついて前に進むことができないメンバーがでてきた。ヘッドランプの灯りで岩場の先頭を行く私1人には手だしもできない。(次ページへ続く)



▲槍ヶ岳頂上

(前頁から続き)

「やはりこのメンバーで登るべきではなかった…」もし岩場から滑落したら「引き返すなら早い方が…」と悩みはじめたときだった。「怖がらずに、手を前に出して」「足をその岩にかけて」と鳴原さんの声の下から上がってきた。

鳴原さんは前日(29日)にも大槍に登っている。「大槍に全員で登ろうと昨日会長と約束した以上、登らなかつたら男じゃないヨ

帰ってきた春日部ラーメン屋のこと。律儀な方である。と当時に、パーティを組んだら個人行動を慎み「弱い方をサポートしながら登ることが鉄則」ということを理解している。

そして鳴原さんは以前消防隊メンバーだった。パーティの大事さに精通し、レスキューでもあった。予期しなかつた鳴原さんのサポートに胸なでおろし、ただただ感謝で、目に熱いものがあふれていた。

「まるでロッククライミングの世界ですね」と、前日にも大槍に登った市川さん。大槍での滑落事故は今でも絶えることはなく、ベテランがサポートしなければ容易に登ることができない難所である。

そんな苦労や恐怖もあってか、オレンジに輝くご来光はメンバーの臉にしっかりと焼きつき、モルゲンに輝く穂高連峰をバックに、遊友1人ひとりの喜びと感激、感動に満ちあふれた表情が映しだされている。

日本のマッターホルンには17歳のときに登頂

「1位から4位(富士山、北岳、穂高、間ノ岳)までの山に登ったから、来年は5位の槍ヶ岳に登りたい!」と、北岳山荘での佐藤きよみさん。

私にとって槍ヶ岳は、遊友のメンバーと登った11年前を最後にして、サヨウナラしていた。しかし佐藤さんや松浦さんなどの熱意に心ゆすられた。

ウエストンは槍ヶ岳を「日本のマッターホルン」と呼び、山を始めたばかりの初心者でさえも、その姿を見つけると「あれは槍だ!」と指すほど、ほかの峰々と山容を異にしている。この峰をターミナルとして、東西南北に延びる尾根道があり、大陸における交易路の意味合いさえ感じる「天空の交差点」。それが槍ヶ岳である。

私が初めて槍ヶ岳に登ったのは17歳。そのときのルート(尾根)は、槍ヶ岳～穂高岳縦走の核心部、大キレットから続く主稜線。「怖い」とは思わなかった。それは初めて高山病にかかったから。

次に燕岳(つばくろ)～大天井岳(おおてんしょう)～槍ヶ岳の東鎌尾根に。

そして北アルプス最奥の雲ノ平から鷲羽岳(わしば)・双六岳(すごろく)から槍ヶ岳の西鎌尾根と、クライマーの世界・北鎌尾根を除いて、東西南の尾根を歩いてきた。

熊と初めて遭遇した槍平小屋。不摂生のため初めてバテた飛騨沢ルート。槍ヶ岳山荘での美人姉妹のフルートコンサートには感激して涙した。

時には会社の同僚、山友だち、そして遊友のメンバーたちと槍の穂先を究めてきた。その槍ヶ岳山行も今回が最後であろう。

深夜1時、黒い槍の穂先をシルエットに、オリオン、北極星、スバルなどの星たちが円を描いて光り輝き、屑となって流れている天の川に、

流れ星が糸を引いて走る光景は45年前と変わることはない。

白い残雪の大喰岳・南岳を前衛に、朝日に赤く染まる穂高の峰々。線香花火のように光り輝くご来光を背に、どこまでも続く漆黒の常念岳の山々。北東には白馬岳などの後立山連峰。北には剣岳・立山連峰。左手にひときわ大きい北アルプスの女王・薬師岳。北西まぢかに見えるは鷲羽、水晶岳などの黒部の峰々。南西はるかに乗鞍岳と越中白山。富士以外の山々の大パノラマが展開する。

綿の雲海に浮かぶ飛騨の笠ヶ岳。山と雲をスクリーンにして、槍ヶ岳の穂先が、青色した「影槍かげやり」となって映っている。

槍から延びる西鎌尾根に白い雲が滝となって流れ、槍沢カールは雲の絨毯と残雪、緑の木々が優しくU字峽を構成している。長年通った槍とのフィナーレは、白いハクサンイチゲ、ピンク色のハクサンフウロ、真黄のシナノキンバイの花々が名残を惜しむかのように咲きほころんでいた。

結びに

・大槍での鳴原さんのサポートに、重ねて心から感謝を申し上げます。

・会員への釣り銭を作るため、長野駅売店に何度も「買い物」に行き、山小屋の手続きなどをしてくれた会計担当の松浦、市川両氏にお礼を申し上げます。

・キャンセル料をカンパしてくれた松沢さんにお礼を申し上げます。

・30日の大槍組みの方々に不安と恐怖をあたえたこと、リーダーとしての統率力のなさに深くお詫び申し上げます。

でも良かった。滑落しないで無事に帰ってきたから…ありがと!!

2012年7月31日 伊藤松雄

▼○○○○



2012年7月28日

(土)～30日(月)、心待ちにしていた槍ヶ岳山行に参加しました。槍ヶ岳は、北アルプスにある標高3,180mの日本で5番目に高い山で、「日本のマッターホルン」とも言われる人気の高い山です。今年の山行計画が決まってから、年間カレンダーを作成し、1日平均約10kmのウォーキングや週3日のジム通いによるトレーニングも続けてきて漸くその日が来ました。7月28日朝4時に起床、せんげん台駅発5時50分の電車に乗り、まずは春日部駅へ、ここで今回の参加者13名の内10名が落ち合いました。そして大宮駅へ、ここで残り3名が加わり13名全員で大宮6時50分発「あさま501号」で長野へ、8時5分に長野に着いて、8日15分に長野駅東口5番乗り場からバスに乗り上高地へと向かいました。上高地には予定より20分遅れて11時20分に到着。100円の有料トイレでトイレタイムをとり、11時30分に重いリュックを背負って出発です。梓川に沿って歩き出すとすぐに「かっぱ橋」です。テレビや写真などで幾度も見ておりますが来たのは初めてです。雪渓が所々にある山々が遠く前方に見えます。しかし、槍ヶ岳はまだ視界にはありません。上高地バスターミナルから歩き始めて45分経った12時15分に明神に着きました。明神の標高は1,425mです。槍ヶ岳山頂までは1,755mの標高差があります。明神で15分の昼食タイムをとり12時30分に出発、1時間ほど歩いて13時30分に徳沢に到着しました。徳沢の周辺は開けた草原になっていて、徳沢ロッジやテント場、徳沢園がありました。ここで10分間休憩して更に約1時間歩いて14時35分に横尾に到着です。上高地から歩き始めて約3時間です。横尾で小休憩を取ったあとは初日の宿泊地である槍沢ロッジへと向かいました。15時30分～18時10分の間ならお風呂に入れるということで、予定では槍沢ロッジに17時到着でしたが、40分早い16時20分に到着してしまいました。お風呂の魅力が皆の足を速めたようです。また、若手3名には槍沢ロッジの少し手前からピッチを速めて先に行ってもらい宿泊の手続きを先行して頂きました。お蔭で、ロッジに着くと荷物を降ろして直ぐにお風呂に入って汗を流すことができました。風呂上りと言えばビールです。外の椅子に腰かけて皆で乾杯しました。ビールの値段は生ビール1杯が900円、缶ビール500mlが750円、缶ビール350mlが500円です。こんなに高くても美味しいビールは、ここでなくては味わえません。お風呂とビールは、身体へのご褒美であり、今日の疲れを癒してくれました。槍沢ロッジは標高が1,820m、収容人数は150人です。食堂で夕食をとり、その後は、飲み過ぎない程度にまた酒を飲みながら皆と語り、20時30分には消灯ですが、それより早く床に入りました。私は高山での山小屋は初体験です。女性も男性も同室、寝返りも打てない程の狭さ、いびき、歯ぎしり、雷や沢の水音。慣れない私は勿論熟睡など出来ません。しかし、眠りは浅くとも横になれたので体力の充電はできました。昼間は降らなかった雨が寝床に入ったあたりから降り出して夜中前には止んだようです。翌朝3時30分頃の夜明け前に起きて外に出たら星が綺麗でした。

2日目、朝5時に全員元気で槍沢ロッジを出発しました。前日の疲れは感じておりません。足の筋肉痛もありません。いよいよ今日、槍ヶ岳山頂に立てるかという思いで胸が躍っておりました。槍沢ロッジあたりからは槍ヶ岳山頂が時折見えます。そして昨日は緩やかな傾斜の登りでしたが、今日は傾斜がきつくなります。沢を渡ったり、雪渓の上を歩いたりも繰り返しながら登って行きました。タオルを沢の水で濡らして首にあてた時の気持ちよさは最高でした。2時間ほど登って7時を少し過ぎた頃、天狗原分岐に到着。槍沢ロッジで造って頂いた弁当で朝食をとりました。この辺りに来ると槍ヶ岳山頂は眼前に見えます。気になるのは天気です。雨は大丈夫そうですが、雲が現れたり消えたりで目まぐるしく変化します。頂上が見えていたかと思うと直ぐにガスで霞んでしまいます。それから、高山植物が見え出して綺麗でした。黄色い



▲ ミヤマキンバイ



▲ 槍ヶ岳山頂にて

花ではシナノキンバイ、ミヤマキンボウゲ、ミヤマキンバイ、クルマユリなど。白い花ではチングルマ、ゴゼンタチバナ、イワツメクサなど。紫色の花ではクガイソウ、ミヤマオダマキ、ミヤマトリカブトなど、その他の花もたくさん咲いておりました。今回は雷鳥の姿は見る事が出来ませんでした。イワヒバリを見ることができました。山頂に近づくにつれて傾斜がきつくなってきますが、頂上が見え始めていますので力もです。予定通り11時に槍ヶ岳山荘に到着しました。この後は、槍ヶ岳山頂に登る者、大喰岳に行く者、明日に備え



▲ 槍ヶ岳山荘前にて

て休む者に分れました。私は、早々お昼を済ませてから正午前に4人で山頂に挑みました。標高差100m程を約30分で登ります。岩をよじ登る感じです。鎖に掴まって登ったり、垂直のはしごを登ったりして、12時20分に3,180mの頂上に立ちました。勿論360度パノラマ展望ですが、ガスが出たり消えたりで景色も山々が見えたかと思うと直ぐにまた見えなくなったりです。頂上は狭く、次々と登山者が登ってきますから、長居は出来ませんので記念写真を撮ったら速やかに下山しなければなりません。それでも15分程度は粘ったでしょうか。途中渋滞もあって往復で約1時間半かかり13時15分には山荘に戻りました。槍ヶ岳山荘は、大規模な山小屋で650人収容です。この日も大勢の登山者で賑わっておりました。お風呂はないので、後は山荘周辺をウロウロして展望を楽しんだり、高山植物を鑑賞したり、ビールやお酒を飲んだりして夕食の時間を待ちました。夕食後はまた山荘の周りをウロウロした後、明日のために早めに寝ましたが前日と同じ状況で熟睡とはなりませんでした。翌朝は3時に起きて外に出ると満天の星空です。星が大きく近くに感じられました。星座についてはうとい私ですので北斗七星、カシオペアくらいしか確認はできませんが、大小様々な数多くの星が輝いておりました。

3日目、この日は槍ヶ岳山頂に登ってご来光を拝む者(9人)、大喰岳からご来光を拝む者(3人)、下山のために体力を温存して休む者(1人)に分けられました。私は昨日、山頂に登っているので大喰岳からご来光を拝むことにしました。ヘッドランプを付けて、山荘を4時10分に出発、25分で大喰岳山頂(3,101m)に到着しました。しばらく待って5時頃になると太陽が顔を出しはじめました。先程まで星空でしたのでご来光も拝めてきわめてラッキーでした。大喰岳の頂上からみて、槍ヶ岳の右の方に太陽が顔を出したので、槍ヶ岳もご来光も同時に視界に入ります。綺麗な光景でした。この後は急いで荷造りをして下山です。今日中に家まで帰ります。6時10分に槍ヶ岳山荘を出発し、来た時と同じルートで下山しました。雲一つない晴天で、槍ヶ岳の景色を惜しみながらストック片手に下りました。山荘で造って頂いた朝食を途中で食べて、前々日泊まった槍沢ロッジには10時10分に着きました。次の横尾には11時45分に着いて、ここで朝食を食べて、また直ぐに出発です。明神には14時丁度、上高地には15時丁度に着きました。途中、梓川でイワナが泳ぐ姿、猿が笹の芽を食べている光景も目にしました。上高地からはタクシーで「さわんど温泉」行き、40分間で「梓湖畔の湯」で汗を流してビールを飲み、また同じタクシーに乗り17時15分に松本駅に到着しました。松本からは電車で長野へ、そして長野駅18時50分発「あさま548号」に乗り、大宮に20時49分に着きました。ここから東武線で春日部へと帰ってきました。私は、武里駅で降りて藤井さんと二人で反省会をしました。さしみや焼き鳥などで生ビールをジョッキ3杯、たくさん反省をして自宅に着いたのが11時55分でした。あわや翌日帰宅となるどころでした。

初めての3,000m登山で、山小屋体験などいい経験ができました。天候は3日間とも晴れて雨具の出番なし、星空、ご来光も拝めました。そして怪我もなし、筋肉痛もほとんどなく、多少ふくらはぎに痛みを感じる程度で腿の痛みは全くありません。「槍ヶ岳バンザイ」です。これも伊藤リーダー、藤井さん他、皆様のお蔭です。ありがとうございました。

登山者の リュックの汗に 蝶止まる
山頂へ 行くほど低い 花の丈
雪渓の の岩場は 花畑
山頂の 岩場をつたう イワヒバリ
雪渓の 上を舞行く コムラサキ

槍ヶ岳山行

何年ぶりの槍ヶ岳久しぶりに出会えました。以前は並んで登頂でしたが、今夏は曜日の関係か比較的すいてましたので30分で登り景色を楽しみカメラに収めました。また大喰山頂にも行きここからの朝日を浴びた槍も堪能しました。帰路の日は槍ヶ岳山荘から約8時間の行程でしたが無事?下山できました、実はパーティのしんがり歩いてきたのですが、出発の際の山荘出口の石段で荷物がふれあい踏み外し左膝ひねって打撲しました自分で応急処置し、たいしたこと無いとそのまま上高地まで平気な顔で着ましたが、最終の最寄駅の乗り換え階段が上り下りできなくなりメンバーに話しました。念のため翌日病院にかかりましたが、骨に異常は無く打撲捻挫炎症で2週間程度の診断です。皆様にご心配おかけし、伊藤リーダーお世話になりましたのに春日部で反省会できなく恐縮です。

《藤井 一義》



やったぜ!槍!!!

念願の槍ヶ岳登頂出来ました。私の希望を叶えてくれた会長、そしてそれをバックアップしてくれた仲間たちに感謝、感謝です。又、今年も松浦さん、市川さん、清水さん(新人)の若者が大喰岳まで北山さんと私をエスコートしてくれ?bTの槍ヶ岳と?bP0の名山を制覇できました。2泊3日の山行は大変しんどかったのですが私の人生の大きな大きな宝物になりました。皆様、本当にお世話様でした。

《佐藤 きよみ》

槍ヶ岳から無事帰りました

槍ヶ岳山行、天候やメンバーに恵まれ最高でした。槍沢から見上げる槍ヶ岳、山頂や小屋周辺から見られた常念岳や笠が岳、三俣蓮華岳、薬師岳などすばらしい眺望でした。槍ヶ岳は、40年ぶり3回目になりますが、青春期の記憶がよみがえり少し若返りました。今回は、朝の遅刻など伊藤リーダーや皆様にご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。これからもよろしくお願い申し上げます。《久保谷 実》

◀シュロソウ

▼○○○○

▼○○○○



2012年9月山行案内 長瀨七草寺巡り

リーダー：佐藤 きよみ

長瀨町内に点在するお寺に咲く秋の七草を訪ねます。山里の静かな秋を味わい、七寺を3時間強で廻ります。途中蕎麦屋にて昼食。(昼食持参不要)。その後近隣の散策をして「満願の湯」にのんびり浸かります。なお、賽銭用に小銭を少し用意しておいたらゲーです 持ちものは念のため雨合羽、温泉グッズ、軽食を!

日 時: 平成24年9月9日(日)

集 合: せんげん台6:15分、春日部6時30分

持ち物: 雨具、風呂の用意

8月16日現在の参加者は25名です。

萩の寺 洞昌院→

